

A WORLD
WHERE
SOCIAL ISSUES
CONTINUE TO
GET SOLVED

ANNUAL REPORT 2024-2025



CROSS FIELDS



Message

代表メッセージ

世界が大変な今こそ、 自分たちにできることを全力で

ウクライナやガザにおける人道危機をはじめ、残念ながら国際的な情勢は混迷を深めているように感じます。こうした現実を前に、ときに無力さを感じることもありますが、それでも「自分たちの持ち場」で自分たちにできることに全力を注ぐことが最も大切だと信じています。

2024年度も、各事業でミッションの体現に向けてメンバー一人ひとりが様々な挑戦を行って成果を生み出すとともに、様々な学びを得ました。2025年度も引き続きチームで力を合わせて、事業を通して社会に新たな価値を届けていきたいと思います。どうか本年度も、変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



共同創業者・代表理事

小沼 大地

青年海外協力隊としての中東シリアでの活動、マッキンゼー・アンド・カンパニーでの勤務を経て2011年にクロスフィールズを創業。ビジネスパーソンが新興国で社会課題解決にあたる「留職」をはじめ、ビジネスとソーシャルをつなぐ様々な活動を展開。日本国内のNPOのネットワーク組織である新公益連盟の共同代表も務める。2016年にハーバード・ビジネス・レビュー「未来をつくるU-40経営者20人」に選出。著書に『働く意義のを見つけ方—仕事を「志事」にする流儀』（ダイヤモンド社）。2児の父で、地域の少年野球チームの監督や小学校のPTA役員も務める。

Our Vision

目指す世界

＞ 社会課題が解決され続ける世界

Our Mission

果たすべき使命

- ＞ 社会課題を自分事化する人を増やす
- ＞ 課題の現場に資源をおくり、ともに解決策をつくる

CULTIVATE領域

社会課題を自分事化する人を増やし
社会の土壌をつくる



社会課題を自分事化する
人の数を増やしていく
人へのアプローチ



社会の未来を切り拓く
リーダーを育む

EMPOWER領域

より広く拡大／拡散
Scale Up/Out

私たちの事業領域とプログラム



より深く突き詰める
Scale Deep

CO-CREATE領域

課題の現場に資源をおくり
解決策をともにつくる

課題の現場において
様々なステイクホルダーとともに
解決策を生み出す
課題へのアプローチ



Program Reports

事業報告

クロスフィールズは「社会課題が解決され続ける世界」をビジョンに掲げ、様々な事業を展開しています。

2024年度は

- ① クロスフィールズとして起こしたい変化に向けた実践を積み重ねる
- ② ビジョン実現に向けた1つ1つの成果を喜び合い、メンバー1人1人にとって持続可能な働き方を実現する
- ③ ビジョン実現に向けた大きなモデルチェンジに向けた挑戦に着手する

の3つを軸に、社会課題を自分事化する人の数を増やしていく「人へのアプローチ」と、課題の現場において様々なステークホルダーと解決策を生み出す「課題へのアプローチ」の両面で事業を進化させてきました。

続くページからは各事業の概要と2024年度の活動実績をご紹介します。

EMPOWER領域

01

留職プログラム

Corporate Volunteering Program

02

社会課題体感フィールドスタディ

Social Issue Understanding Field Study

CULTIVATE領域

03

共感VRプログラム

Empathy VR Program

CO-CREATE領域

04

孤独・孤立対策事業

Initiatives to Prevent Social Isolation and Loneliness

新規イニシアティブ事業

- ＞ グローバルキャリア探究キャンパス「CROSS BRIDGE」
- ＞ ボードマッチプログラム
- ＞ アラムナイ事業
- ＞ ソリューション共創事業

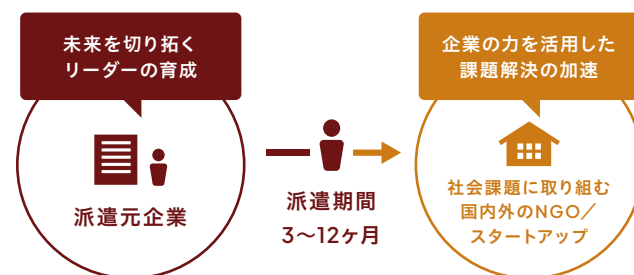
Other

インパクトマネジメント



留職プログラム

国内外で社会課題に取り組むスタートアップやNGOに企業の社員を数ヶ月～1年に渡って派遣し、本業のスキルを活かして課題解決に取り組む次世代リーダー向けプログラム。



2024年度までの活動実績(累計)

派遣人数	296人
企業数	54社
パートナー団体数	149団体



事例紹介

国内派遣

企業

SOMPOホールディングス 留職先 merry attic



損保ジャパン社員が、国内で子育て支援を行う一般社団法人merry atticで一年間の留職に参加しました。留職先では新規事業の立ち上げや人事評価制度の策定に貢献。団体貢献を通じて自分自身の強みを見つけ、社会課題に正面から向き合う強さをもったリーダーへ成長していきま

WEB

New Initiative 新規の取り組み

Shipyard for Social Intrapreneurs



「社会課題を解決する事業を社内で立ち上げたい」という思いを持ったアラムナイ向けプログラム「Shipyard for Social Intrapreneurs」がスタートしました。本プログラムは半年間の伴走を通じて、事業アイデアの創出と実現をサポートするものです。今年度実施した第1期では、食品メーカーの研究者が参加。プログラムを通じて事業アイデアを新たに生み出し、現在は新規事業部に異動し事業化に向けて動いています。

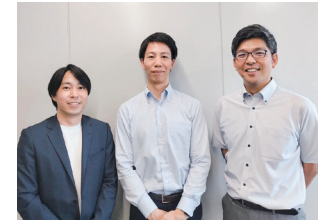
Interview 留職者・上長インタビュー

企業

クボタ

株式会社クボタは2023年より留職を導入しています。今回はカンボジアに留職した吉岡さんと上長(当時)の能登さんにインタビューを実施しました。能登さんは「留職を通じて日本と全く異なる環境・立場において、その視座・視野で考えて実践することで、高い視座をもったグローバルリーダーが育成できる」と評価。さらに「個人の成長だけではなく組織にとっても多くの価値があるプログラム」と、振り返ります。

WEB



Member's voice



留職事業リーダー
花井 一太郎

社会課題の解決を牽引するリーダーを一人でも多く育むことにこだわり、プログラムのインパクトを最大化すべくチームで改善を重ねながら、留職者や派遣先と向き合い続けた一年でした。留職者がプログラムへの参加を経て、社会価値創造に繋がる具体的なアクションを起こすような事例も増え、留職事業の確かな進化(深化)を感じています。来年度はこれまでに以上に「留職が社会に果たすべきミッション」を大切に事業活動を進めていきます。



社会課題体感フィールドスタディ

数時間～1週間という短期集中型のリーダー向け越境プログラム。国内外の社会課題の現場や現地リーダーの志から刺激を受け、社会に対する感性とぶれない軸を育んでいきます。

2024年度までの活動実績(累計)

🚩 実施件数	139件
👤 参加人数	2,894人
🏢 実施企業数	75社



事例紹介

企業 日立アカデミー プログラム 岡山県西栗倉



日立の課長層14名が西栗倉村での2泊3日の現地セッションに加え、「自身の未来イニシアティブ」を生み出す3ヶ月のプログラムに参加しました。現地でのリーダーとの出会いを通じて志を磨いた参加者たちは、後続のセッションでは社内メンター（部長層）らとの対話から「日立を通じた社会的価値」を考えていきました。最終セッションで「未来イニシアティブ」を宣言する姿には、日立を牽引する中核リーダーとしての覚悟が見られました。 [WEB](#)

企業 花王グループカスタマーマーケティング株式会社、NTT西日本株式会社

プログラム 岐阜県岐阜市



花王グループカスタマーマーケティングとNTT西日本の二社のマネージャー層を対象に、岐阜県岐阜市にて1泊2日でプログラムを実施しました。参加者は日常の業務を離れ、現地で地域課題に取り組むリーダーや、他企業のマネージャーとの対話を通じて「自分がつくりたい社会」や「リーダーとして周囲にどのような影響を与えていきたいか」について考えを深めていきました。

After Story プログラムを通じたインパクト

企業 PwC プログラム 国内外でのフィールドスタディ

PwCコンサルティング合同会社は、2017年の社会課題体感フィールドスタディへの参加を皮切りに、クロスフィールズとともに様々な形で社会課題の解決に向けて動き出しています。同社の常務執行役パートナーと、クロスフィールズ代表の小沼が、セクターを超えた協業を通じて生まれるインパクトなどについて語りました。 [WEB](#)



Member's voice



プロジェクトマネージャー

中村 翠

今年度はプログラムを一つひとつ着実に実施すると同時に、新しい協働パートナーの開拓も進めました。2025年5月には現地団体にもご協力いただき能登半島でのフィールドスタディが実現するなど、新たな挑戦もできた一年でした。次の一年は、クロスフィールズのビジョンの実現に向け、「社会の未来を切り拓くリーダーたち」を育てていくことをミッションに、チーム一丸となり、さらなる事業の進化に取り組めます！



共感VRプログラム

自社が定めるマテリアリティに即した課題や、普段の仕事では接することが少ない社会課題の現場を、映像やテクノロジーを活用して手軽に体験するプログラム。社会課題の解像度を上げ、自分事として捉えることで、社会の視点を持って仕事に向き合うマインドを持った社員を増やします。



2024年度までの活動実績(累計)

企業	 導入企業数	19社
	 参加人数	22,000人以上
学校	 導入学校数	17校
	 参加生徒数	1,500人以上



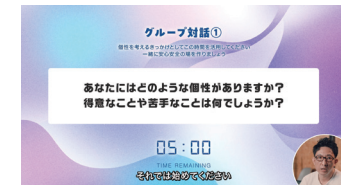
プログラムメニュー

プログラム	対話型 e-ラーニング	オンライン型 ワークショップ	没入型 ワークショップ
	タブレット/スマホ使用 	タブレット/スマホ使用 	VRゴーグル使用 
	自社のマテリアリティ に応じた社会課題の 自分事化 事業を通じた 課題解決に取り組む マインドの醸成	社会課題に対する 当事者意識の醸成 事業アイデア探索	社会課題に対する 当事者意識の醸成 事業アイデア探索
実績規模（推奨）	1,000名以上 人数制限なし 英語版制作による グローバル展開も可	最大200名 程度	10名程度

事例紹介

株式会社IHIとの対話型e-ラーニング開発

株式会社IHIとともに「DE&Iを自分事にする」という同社の重点施策の実現に向けて、対話型e-ラーニングを制作しました。プログラム内では、一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティの代表と視覚障害者スタッフ、IHIで働く様々な社員が出演し、「多様な個性の捉え方」について考えを深めていきました。これまでに約12,000人が受講し、「自己理解を深めて発信する重要性を感じた」「同僚の考えを知れたことがDE&Iの第一歩だった」といった声が届いています。



NPOセクターとの連携加速

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえと共同で、こども食堂の価値やイメージを伝える映像制作を行いました。むすびえ創設者の湯浅氏やこども食堂運営者のインタビュー、そしてこども食堂の様子を映す360度映像を撮影・編集した動画を、同団体のファンディング活動等で活用いただいています。視聴した方からは「こども食堂の価値・魅力を実感した」などの反応がありました。本取り組みをきっかけに、NPOとの協働が加速しています。





孤独・孤立対策事業

NPO／企業／行政のクロスセクター連携で
孤独・孤立の対策に取り組みます。

「課題の現場に資源をおくり、ともに解決策をつくる」
というミッションのもと、Co-Create領域では特定の
課題領域に対し、クロスフィールズとして主体的な
アクションを行っています。

2つのアプローチ

誰もがつながりを実感しながら安心して生き生きと暮らせる社
会の実現に向け、「地域づくり」「仕組みづくり」という2つのア
プローチで孤独・孤立対策の実践・探索・調査に取り組んでい
ます。

地域づくり

地域や人とつながることができる
場／機会を増やす

仕組みづくり

誰もが他者や地域とつながりを
持てるようになる情報や機会が
届く仕組みをつくる



事例紹介

多様なプレイヤーとの協働による孤独・孤立予防の地域実践



2024年8月より石川県金沢市を拠点に、能登半島地震による高齢の広域避難者を対象としたコミュニティづくり事業を開始。交流型イベント「笑語ひろば」では避難者と地域とのつながりを育んできました。このたび参加者への調査を実施したところ、参加者の7割以上が「新たなつながりを実感した」と回答。さらに、地域活動を担う人材の発掘・育成が進むなど、副次的な波及効果も生まれています。 **WEB**

セクターや国を超えた学び合いの加速



国際交流基金の助成事業として、2023年より日本の各セクターのリーダーを対象とした孤独・孤立予防に関する学び合い事業を実施しています。2024年11月にはロサンゼルスを訪ね、ビジネスの視点から同テーマに取り組む事例などを視察しました。さらに2025年6月には、米国・英国より専門家を日本に招聘し日本の事例視察や意見交換を行いました。世界共通の課題となっている「孤独・孤立」の解決に向けて、国を超えた協働実現を探索していきます。

企業連携の加速



孤独・孤立対策に取り組むNPOと企業との連携強化に取り組んでいます。今年度は団塊ジュニア世代が退職ピークを迎える未来に備え、近く退職を迎える社縁以外の社会的つながりが希薄な方を対象に、退職後の自分らしい生き方や活躍の場の探索を目的としたプログラム開発に着手しました。3月には大手通信企業とともにトライアルを実施。そのニーズと可能性について手ごたえを得ることができました。

Member's voice



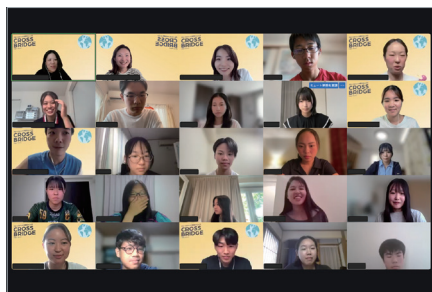
Co-Create事業推進
統括マネージャー

西川 紗祐未

孤独・孤立対策に取り組み始めて3年。地域に入り、現場を持って活動することは、私たちにとって初めての挑戦でした。石川での取組は志を同じくする地域の団体や市民の方々と共に歩んできた「共創のジャーニー」そのものであり、事業の潮目が大きく変わった1年だったと感じています。これからも歩みを止めることなく、共感と信頼を大切にしながら、着実に前進していきます。

1 グローバルキャリア探究キャンパス “CROSS BRIDGE”

クロスブリッジは全国の高校生がオンラインで国際的な社会課題と接点を持ち、その解決に取り組む先輩との出会いから、自身のキャリアの可能性を広げていくプログラムです。第三期となる今回は、日本全国から30名を募集し、8月から10月まで実施。居住地や年代も異なる多様な参加者が、ともに社会課題について学び合い、自身の関心を深める機会を提供しています。 **WEB**



Member's voice プロジェクトマネージャー 岡崎 明子

クロスブリッジでは社会課題に対して多様な解決手段が存在することを伝えることで、学生にとって進路やキャリアを考える大きなきっかけを与えています。プログラム卒業生ものべ100名弱となった今、それぞれが新たな挑戦に踏み出していく様子を見て、今後の活躍にますます期待が高まります。



2 ボードマッチプログラム

セクターを超えた人材交流を役員レベルで促進することを目的に、企業の経営層がNPOへの経営参画をするためのマッチングを実施しました。2024年度は経済同友会との協力のもと実施し、計8名がソーシャルセクターの団体に半年間にわたり経営参画し、うち4名が期間終了後もアドバイザー等の形で正式参画することが決まりました。本事業は2025年度も継続して実施予定です。 **WEB**



Member's voice プロジェクトマネージャー 神原 由香里

ボードマッチイベントには多くの方が参加し、セクターを超えた協働への関心の高さを実感しました。企業経営層が共感を基にNPOとつながり、異なる視点で気づきを得て刺激し合い、より良い社会の実現に向け共創する機会になりました。今年も新たなつながりを創出し、連携を広げていきます。





3 アラムナイ事業

2024年度は「アラムナイ(プログラム卒業生)を巻き込み、社会課題が解決され続ける世界をつくる」を事業ビジョンに掲げ、施策を実施。メールマガジン“Sailors”の配信や、社会課題解決に向けたマイプロジェクトに伴走するプログラム「Sailors Acceleration Program(SAP)」第二期を実施しました。第3期も確定しており、卒業後も社会課題解決へのアクションを生むきっかけを提供していきます。WEB



Member's voice プロジェクトマネージャー 柴谷 直美

SAP2期には、留職・フィールドスタディ・SIM卒業生の6名が参加。立場も本業も異なる彼らが関心テーマに沿って活動し、刺激し合う中で「行動が加速した」との声も。これからはポジティブな「大人の実験場」として活動を継続し、輪を広げながら、アラムナイの皆さんと共に「社会課題が解決され続ける世界」を目指していきます！



4 ソリューション共創事業

異なるフィールドを繋ぎ、社会課題を解決する事業や仕組みを生み出すことを目指す新規事業を立ち上げました。本事業は「プログラム型」と「プロデュース型」の2軸で構成され、プログラム型ではSIM(Social Innovation Mission)を始めとした参加型プログラムを提供します。プロデュース型では異なるアクターを繋ぎ、ソリューションを生み出す場のデザインやコンサルティングを幅広く行います。WEB



Member's voice 事業統括マネージャー 田熊 彩子

2022年度のSocial Innovation Mission以降で試行錯誤してきた「社会課題解決に資する事業づくり」に、本腰を入れて取り組むための事業をスタートしました。クロスフィールズが培ってきたソーシャルとビジネスを繋ぐ強みを土台に、新たな挑戦を重ね、社会課題を解決する事業やプロジェクトを生み出していきます。





インパクトマネジメント

法政大学石山教授・株式会社ビジネスリサーチラボと共同で開発した「社会配慮行動促進の理論モデル」を活用しながら、プログラム参加者の意識変容を測定・可視化しています。測定結果をもとに、プログラムの改善と社会的インパクトの評価を行い、持続的な社会課題解決に向けた人材育成を強化しています。

「社会配慮行動促進の理論モデル」とは

社会課題の「自分事」と行動変容を促進するプロセスを明らかにした変化モデル。「俯瞰」「危機感」「内発性」の3要素が高まることで社会課題への意識変容が起き、行動の発揮に繋がることを示しています。WEB





3,000名の越境から見たインパクトを発表



越境経験者3,000人突破を記念したイベントで、法政大学・石山恒貴教授をゲストにプログラム参加者向けの調査成果を、理論モデルを用いて初めて発表しました。当日は「越境経験を通じて社会課題が自分事化され、意識や行動に変容が生まれること」や、「行動変容にはプログラムごとの特徴が見られること」などを紹介。参加者からは「自分の変化に言葉が与えられた気がする」といった声も寄せられ、調査の意義や理論モデルの汎用性への手応えが感じられる機会となりました。 [WEB](#)

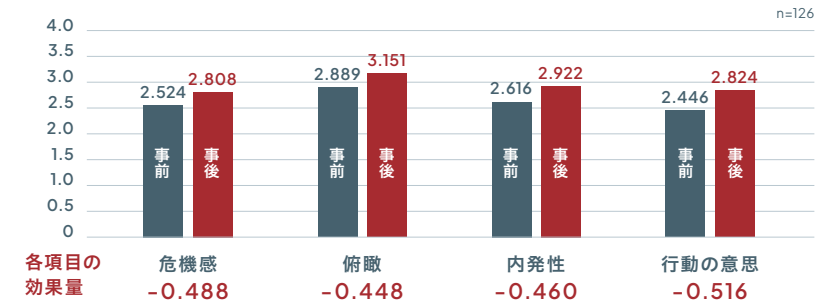
経済産業省の越境学習調査に協力。 クロスフィールズの事例も掲載。



経済産業省が公開した「越境学習グッドプラクティス」および「伴走者ガイドライン」の作成に、調査協力という形で参画しました。越境が個人や組織にもたらすインパクトに関する議論に参加し、これまでのプログラム運営や伴走支援の知見を提供しました。グッドプラクティスでは、越境学習が人材育成にとどまらず、組織変革や社会価値の創出につながることを示す事例として、留職や社会配慮行動促進モデルを活用した取り組みも紹介されました。 [WEB](#)

フィールドスタディ参加者の意識変容を分析

2024年度は、フィールドスタディ参加者126名の「社会配慮行動促進アンケート」の回答分析を実施。危機感・俯瞰・内発性・社会配慮行動の意思の全要素で中程度の効果量を得ました。今後は実施形態や属性別に分析し、改善に活用予定です。



効果量とは？

- ・Effect sizeと呼ばれ、差の大きさを示す指標です。
- ・一般的に、0.2以上は小さな効果量、0.5以上は中程度の効果量、0.8以上は大きな効果量と設定されています。
- ・p値（データが偶然でないことを示す指標）は、すべての項目で $p < 0.05$ となり統計的に有意です。

Member's voice



留職／IM事業リーダー
鈴木 園子

2024年度は「社会課題の自分事化を通じた社会配慮行動モデル」の認知と関心を高めると同時に、モデルを活用したプログラム進化の探索を深めることができました。参加者の変化やアクションを可視化する「アラムナイ向け調査」を今後も継続しながら、事業の社会的インパクトの測定と最大化に挑戦していきます。



Working Environment

組織づくりで大切にしていること

公平性 / Fairness

多様な個人がフェアに働ける機会の提供

成長支援 / Challenge & Empowerment

挑戦し、成長し続けられる機会の提供

透明性と誠実性 / Openness & Sincerity

オープンで誠実なコミュニケーション

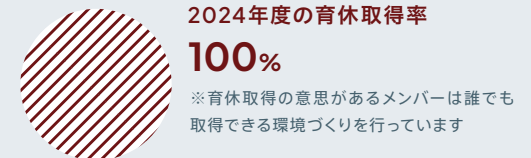
組織づくりの取り組み

副業制度



副業制度を活用し、一人ひとりが多彩なフィールドで自己実現する後押しをしています。

育児との両立環境の整備



メンバーには育児世代が多く、育児休暇の取得者が増えています。メンバーそれぞれのライフスタイルを尊重し、働きやすい組織づくりを目指します。



ment

組織の取り組み

クロスフィールズは社会インパクトを持続的に創出するため、一人ひとりのメンバーが働きやすい環境づくりに力を入れています。

TOPIC

出向者受け入れ

クロスフィールズは2024年8月よりPwCコンサルティング合同会社より社員2名の出向受け入れを開始しました。2名はいずれも入社5～10年のコンサルタントで、今後2年にわたりクロスフィールズにてビジネスセクターとソーシャルセクターの連携を加速するための様々な業務に従事します。 [WEB](#)



合宿を実施しました

次年度に向けたチームアップを目的に、2日間にわたる合宿を実施。事業横断的な対話を実施したり、葛西臨海公園でチームビルディングを行ったりしました。メンバーは非日常の空間でリラックスしながら関係を深めました。新年度に向けてエネルギーをチャージしたクロスフィールズ一同、さらなる社会インパクト創出を目指します。



メディア掲載

WEB WEBマークの付いた記事はこちらから



合計**15**回掲載

新聞、雑誌、WEBメディア



Forbes
2024年12月号に掲載



石川テレビ「イト」
2024年12月10日放映



BUSINESS INSIDER
2024年11月29日に掲載

その他のウェブ掲載

2024年7月17日	朝日新聞	with Planet	WEB
2024年12月6日	北陸中日新聞	避難先 一緒に笑おう 語ろう	WEB
2025年1月27日	毎日新聞	阪神大震災の被災住職が石川へ	WEB
2025年3月28日	日経新聞	国富を考える	WEB
2025年5月27日	日本財団ジャーナル	ビジネスパーソンが社会課題を自分事化する方法とは？「留学」ならぬ「留職プログラム」に学ぶこと	WEB

講演・イベント

合計**20**回登壇

経済同友会・マルチセクターダイアログ登壇

2024年10月に開催された「共助資本主義第3回マルチセクター・ダイアログ」に、代表・小沼が登壇しました。これは経済同友会・新公益連盟・インパクトスタートアップ協会に所属する約430名の経営層が集まる対話型イベントです。小沼はイベントの企画設計やブレイクアウトセッション全体の進行、「共助リーダー・アワード」の選考員とプレゼンターを務めました。



「IMPACT STARTUP SUMMIT 2024」に登壇

2024年9月に開催された「IMPACT STARTUP SUMMIT 2024」に、代表・小沼が登壇しました。「共助資本主義」をテーマにしたセッションにて、経済同友会 代表理事・新浪氏、WOTA (株) 代表取締役CEO 前田氏、インパクトスタートアップ協会 代表理事・米良氏と「共助資本主義が作り出す社会とは何か」等を語りました。



主催セミナー・イベント

CEG開催

2024年8月にCross fields Empowerment Gathering (通称“CEG”)を開催しました。本イベントは留職をはじめとするプログラム卒業生やパートナー企業/団体の方々を招いたイベントで、今年は「うねり」をテーマに実施しました。当日はOne Japan濱松氏をゲストにお迎えし、企業内で情熱を燃やし続けるには、といったテーマについて参加者同士で対話を実施。「社会課題の現場での原体験」という共通点を持つ者同士が組織の枠を超えてつながり、お互いに刺激を与え合う時間となりました！



各種セミナー開催

クロスフィールズでは、企業の人事担当者向け勉強会やメディア関係者向けラウンドテーブルを定期的に開催し、社会課題の現場と企業をつなぐ活動を通じて見える社会変化等についてお伝えしています。2025年3月にはNTTドコモの人事担当者をお招きし、「越境学習を通じた自社を牽引するリーダーの育み方」をテーマに実施。当日は4社より5名が参加され各社の取り組みについて意見交換がなされました。



Message from Cross Fields Members

クロスフィールズメンバーからの「来年度に向けた一言」をご紹介します。

自分の枠をはみ出す



プロジェクトマネージャー

今井 櫻子

ありのまま



プロジェクトマネージャー

岡崎 明子

本質的であれ



シニアプロジェクトマネージャー
(業務委託)

沖 依子

歩み!



経営管理マネージャー

落合 伸子

Jump!



プロジェクトマネージャー

神原 由香里

しなやかに



プロジェクトマネージャー
(業務委託)

久保 彬子

掴む!



インターン

クレイネス エレナ

温故知新



代表理事

小沼 大地

鉄のハート



プロジェクトマネージャー
(業務委託)

澤田 祐宣

信頼と共感



プロジェクトマネージャー

篠原 多恵子

共に踊る!



プロジェクトマネージャー

柴谷 直美

持続的なインパクトを
生み出す



留職 / IM事業リーダー

鈴木 園子

飛躍



事業統括マネージャー

田熊 彩子

自分らしく



プロジェクトマネージャー

田中 亜季実

全球入魂



プロジェクトマネージャー

中堂 蘭 咲良

挑戦!



プロジェクトマネージャー

中村 翠

向かい合う!



プロジェクトマネージャー

永山 滉大

Be the change



プロジェクトマネージャー

新倉 美菜

結び、育む。



Co-Create事業推進
統括マネージャー

西川 紗祐未

安心立命



ディレクター

西川 理菜

わがまま



留職事業リーダー

花井 一太郎

伸びしろを楽しむ



事業統括マネージャー

原科 佑哉

大胆にいく!



ディレクター

原田 悠子

蓄える



共感VR事業リーダー

藤原 未怜

前へ!



プロジェクトマネージャー

本荘 めぐみ

進化!



事業統括マネージャー

法幸 勇一

一歩ずつ



広報

山本 知歩

アップデート!



業務委託

渡邊 紘太

積み重ねる



プロジェクトマネージャー

渡辺 真恵

Support Us

「社会課題が解決され続ける世界」の実現に向け、
皆さまからのご支援をお待ちしております。

クロスフィールズは「社会課題が解決され続ける世界」の実現に向け、さまざまな社会課題が解決されていくためのエコシステムづくりに取り組んでいます。今後、個人や法人の皆さまからの寄付を原資とすることで、孤独孤立対策や高校生向け教育事業をはじめとした事業モデルが成り立ちにくい分野での幅広い事業に取り組んでいきたいと考えています。「社会課題が解決され続ける世界」の実現に向け、皆さまからのご支援をお待ちしております。

現在クロスフィールズでは、「認定NPO法人」の取得に向けた準備を進めております。認定取得の条件である「3,000円の寄附を年平均100人以上集めている」という要件達成のためにも、ぜひサポーター会員になって頂けたら幸いです。

ご寄付・サポーター
会員について、詳しくは
WEBサイトを
ご覧ください。



応援メッセージ

日頃からクロスフィールズの活動を支えてくださっている
皆さまからの応援メッセージを一部ご紹介します。

法人としてのご寄付

課題の解決に向けて 共に取り組んでいきます



兵庫ヤクルト販売株式会社
代表取締役社長

阿部 恭大さま

クロスフィールズさんが取り組まれている「孤独・孤立の予防」を目的とした「人と人とのつながりを実感できる地域づくり」は、兵庫ヤクルトが目指す方向性と一致しています。私たちは地域に根ざした企業として、地域の「心身社会の健康づくり」を目標に掲げています。これからは、クロスフィールズさんや地域のNPO、行政、スタートアップと協働し、この課題の解決に向けて共に取り組んでいきます。これからクロスフィールズさんの活動を長期的に応援してまいります。皆さんも私たちと一緒に応援しましょう！

自らの好奇心の芽を育て、ワクワク する人が世界中に増えてほしい



株式会社baton代表

衣川 洋佑さま

世界の社会問題に向き合う「クロスブリッジ」のプログラムは、子どもたちに対して、普段の生活では得られない機会を届けています。身の回りから少し離れた社会を実際に見て、そこで汗をかく人と対話することで、子どもたちは自分たちが抱える課題を別の視点で見たり、「こんなことをしてみたい！」「自分たちにもできそう！」「という思いを発見することができたりするかもしれません。私たちは、人々に気づきを与え、視野を広げるような、「好奇心の芽」を育みたいという思いで活動してきました。このプログラムをきっかけに、自らの好奇心の芽を育て、ワクワクする人が世界中に増えてほしいと思います。

個人としてのご寄付

気づけば10年近く サポーター会員を続けています



マンスリーサポーター

大津 達朗さま

社会人になって数年経った時に、友人からクロスフィールズを紹介してもらったのですが、小沼さんが偶然大学の先輩ということもあり、親近感を感じていました。気づけば10年近くサポーター会員を続けています。「社会人になってからも学生の時に持っていたような情熱に蓋をしない。」海外だけでなく国内でも、異なる社会や異なるセクターを繋いでいくクロスフィールズの活動ですが、益々の発展、引き続き応援しています。

2024年度収支報告 (2024.6-2025.5)

(単位:円)

科目			2024年度実績	2024年度は、前年度比マイナス5%の事業規模となりましたが、組織のサステナビリティを担保しながらも各事業で着実に前進があった1年となりました。留職事業では新興国派遣が引き続き堅調であり、フィールドスタディ事業では石川県能登地方や福島県浪江町でのプログラムを開始しました。さらにCo-Create領域では石川県での孤独孤立対策の取り組みが着実に実を結んでおり、Cultivate領域では新たにDEIをテーマにしたプログラムを開発しました。またクロスフィールズの活動に賛同してくださる個人・法人の寄付が増え、前年度比1.4倍となりました。今後もクロスフィールズのビジョンに共感くださるパートナーの方々と積極的に協働しながら事業を推進してまいります。
収入	事業収入	留職事業、フィールドスタディ等	232,670,878	
	受取会費	正会員受取費・賛助会員費等	578,500	
	受取寄付金	受取寄付金	16,244,588	
	受取助成金	受取公庫助成金等・受取民間助成金	6,691,983	
	その他収入		371,006	
	当期収入合計		256,556,955	
支出	事業費	人件費	154,479,282	2024年度は人材の採用に力を入れたこと、また引き続き海外でのプロジェクトが伸びていることから、支出全体としては前年度と同等程度の規模となりました。なお、その他経費の主な項目は、パートナー団体への業務委託費、ならびに旅費交通費となっています。
		その他経費	78,254,615	
	管理費	人件費	305,107	
		その他経費	13,379,690	
	当期支出合計		246,418,694	
収支	法人税		70,000	2024年度の事業規模としては前年度比ではマイナスとなりましたが、当期正味財産は約1千万の増額となり、健全な財務体制が維持できていると考えています。「社会課題が解決され続ける世界」に向け、より困難な課題に取り組む新規イニシアティブに積極的に取り組むとともに、中長期視点での人材採用・育成に投資してまいります。
	当期経常増減額		10,138,261	
	当期正味財産増減額		10,068,261	
	前期繰越正味財産額		139,264,390	
	次期繰越正味財産額		149,332,651	

注1) 事業費は、主に人件費、業務委託費、旅費交通費など 注2) 管理費は、主に業務委託費・支払報酬費・支払手数料など

編集後記

最後までご覧いただき、ありがとうございました。
2024年度も、多くの挑戦と出会いに恵まれ、
振り返るたびに感謝の思いでいっぱいです。
一つひとつの取り組みの裏に、寄り添ってくださる
皆さまの存在があったことを改めて実感します。
ともに歩んでくださる皆さまのお力添えがあってこそ毎日です。
心より御礼申し上げます。
2025年度はどのような広がりが待っているのか、
感謝を力に変えて、さらに挑戦を続けていきます。
これからも一緒に、新たな一歩を刻んでいけることを
楽しみにしています。

クロスフィールズ広報チーム一同



A WORLD
WHERE
SOCIAL ISSUES
CONTINUE TO
GET SOLVED



特定非営利活動法人クロスフィールズ

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-8-3 町原ビル4F
TEL: 03-6417-4804 E-MAIL: info@crossfields.jp



クロスフィールズ

検索

<https://crossfields.jp>



年次報告書に掲載の記事や詳細は
こちらからWEBでご覧いただけます。

